

令和8年度 短大入試出題方針		
入試の種類	常識テスト	学校推薦型選抜（公募制）
a. 出題のねらい ○ 「高等学校での学習到達度を測定するものであること」という方針を遵守する。高校の科目では「現代の国語」「論理国語」を範囲とする。 ○ 本学のアドミッションポリシー「愛知学泉短期大学が求める水準であること」という方針を遵守する。学園全体で新井紀子氏主催の「RST（6分野7項目）」を基にした読解力向上を進めている。また、今井むつみ氏が提唱する「アブダクション推論」の重要性も、教職員間で共有している。両者を意識した問題を取り入れる。 ○ 現大学1年生から学習指導要領が切り替わっている。学力の三要素「①知識・技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力、人間性」を、バランスよく測る問題とする。 b. 難易度と平均点の予想（設問ごとの予想正解率） ○ 全体 - 平均が6割超の正解率（50点／80点中）になることを期待したい。前年度と比較して同レベルあるいは易化。問題数は多いが平易な問題も含むので、平均点は前年度よりも上がるかも知れない。大学入学共通テストに象徴されるように、受験生には思考力・判断力が求められている。本学の常識テストもそれに倣う。高校側へ、本学が時代の変化に対応しているというメッセージを発信したい。 ○ 問題Ⅰ～Ⅵ（係り受け解析、同義文判定、推論、敬語表現、時事用語、四字熟語） - RSTに関する問題を増やした。本学の目指す学力として高校側に伝わってほしい。平均点の予想…6点／10点中。 ○ 問題Ⅶ（漢字の読み書き、語彙力、適語補充、グラウンディング、要約） - グラウンディングとは、本文を実生活に着地させることである。問題Ⅷ、Ⅸでも取り入れた。当事者意識をもって読み取らせ、正に一般常識の有無を測る。40字の要約問題は、字数制限を守るのが難しい。表現力を測る。平均点の予想…18点／26点中。 ○ 問題Ⅷ（指示語、漢字の読み書き、接続詞等適語補充、慣用句、グラウンディング） - 前後の関係を考えつつ文章を丹念に読む力を試す。適語補充では、高校で授業に取り組む姿勢を測ることができる。平均点の予想…10点／20点中。 ○ 問題Ⅸ（漢字の読み、言い換え、推論、非テキストの読解） - アブダクション推論（結果を見て、どうしてこうなったか仮説を立てさせる）は、正解のない時代に最適解を模索する上で有効。入学後も磨くべきスキルであり、入試問題が受験生へのメッセージになる。 - 非テキストの読解は、高校の授業改善の方向性を意識している。160字の意見文はオープンエンド。表現力を測る。主体的に考え抜く姿勢も必要。諦めない人間性をもって取り組んでほしい。データを自身にあてはめグラウンディングしているか否か、内容を重視した採点をする。平均点の予想…16点／24点中。		
ウラへ		

c. 問題の量

○前年度よりも数は多い。平易な問題を含んでいる。

d. 受験生が解答に要する時間

○解答時間をほぼ使い果たすだろう。